

「国際理解に関する学習」についての一考察

- 小学校第5学年の「総合的な学習の時間」において -

後藤 大雄^{*1}・上田エカテリーナ^{*1}・山口 彩花^{*2}・佐伯 英人

A Study on 'Learning related to international understanding':
Regarding "Integrated Study" in the 5th grade of elementary school

GOTO Daiyu^{*1}, UEDA Ekaterina^{*1}, YAMAGUCHI Sayaka^{*2}, SAIKI Hideto

(Received August 3, 2020)

キーワード：小学校、総合的な学習の時間、国際理解、第5学年、ロシア

1. 研究の目的

1-1 小学校学習指導要領解説の記述と小学校におけるロシアを対象とした国際理解に関する学習

2017年3月に『小学校学習指導要領（平成29年度告示）』が告示された（文部科学省，2018a）。文部科学省（2018b）の『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総合的な学習の時間編』では「グローバル化が一層進む中で、横断的・総合的な課題として国際理解に関する課題を扱い、探究的な学習を通して取り組んでいくことは、意義のあることである。その際には、広く様々な国や地域を視野に入れ、外国の生活や文化を体験し慣れ親しむことや、衣食住といった日常生活の視点から、日本との文化の違いやその背景について調査したり追究したりすることが重要である。」（p.61）と示されている。小学校における国際理解に関する学習でロシアを対象として授業を実践した事例はWebサイトに散見される（東京外国語大学（2019）、吾妻学園つくば市立吾妻小学校（2018）、国士舘大学 国際交流センター（2017）など）。しかし、ロシアを対象として授業を実践し、児童の意識を精緻に調べて分析し、議論した研究はみあたらなかった。

1-2 山口大学教育学部附属山口小学校の外国語活動・外国語科の授業

筆者の1人の上田エカテリーナは、2009年4月より山口大学教育学部附属山口小学校の非常勤講師として勤務し、外国語活動においてALT（外国語指導助手）の教員（T2）としてT.T.を行い、指導してきた。上田エカテリーナの母国はロシアである。2019年度の中学年と高学年の外国語活動では、筆者の1人の後藤大雄がT1、上田エカテリーナがALTの教員（T2）としてT.T.を行い、指導した。別の言い方をすると、上田エカテリーナはT2として外国語活動において英語の学習の補助をしているといえる。ちなみに、2020年度の中学年の外国語活動と高学年の外国語科においても両者がT.T.を行い、指導している。

1-3 研究の目的

前述したように2009年度～2019年度、上田エカテリーナはALTの教員（T2）として外国語活動の授業において英語の学習の補助をしている。そのため、これまで外国語活動の授業中、母国のロシアについて児童に話す機会は無かった。そこで、本研究では「総合的な学習の時間」でロシアを対象とした授業を実践した。この授業では後藤大雄がT1、上田エカテリーナがT2である。本研究の目的は、授業を受けた児童の意識を調査・分析し、ロシアを対象とした授業（国際理解に関する学習）について知見を得ることである。なお、本稿では、上田エカテリーナを「エカテリーナ先生」、もしくは、この授業においてT2の役目はALT（外国語指導助手）ではないが便宜的に「ALTの教員（T2）」と以下に称する。

*1 山口大学教育学部附属山口小学校 *2 下関市立清末小学校

2. 授業実践

2-1 研究の対象と単元の展開

研究の対象は山口大学教育学部附属山口小学校の第5年A組（児童数：32名）である。

本研究の学習活動と調査（学習の内容と学習目標，調査の内容，実施した日時）を表1に示す。学習活動は「調べ学習」と「授業」の2つであり、「調べ学習」は9月12日～9月24日に実施し、「授業」は9月25日の4校時に45分間で実施した。学習活動については「2-2 『調べ学習』について」と「2-3 『授業』について」で詳述する。なお、本研究では「調べ学習」と「授業」を1つの単元とした。

調査は3時点で実施し、児童の意識について調査した。1回目の調査は2019年9月12日の朝の会、2回目の調査は9月25日の朝の会、3回目の調査は9月26日の朝の会に行った。本稿では1回目の調査を調査①、2回目の調査を調査②、3回目の調査を調査③と称する。調査の内容については「3. 調査方法と分析方法」で詳述する。

表1 学習活動と調査

学習活動と調査	学習の内容と学習目標，調査の内容	実施した日時
調査①	児童の意識を調査する。	9月12日の朝の会
「調べ学習」	ロシアに関することをWebサイト等で調べ、ロシアについて理解を深める。	9月12日～9月24日
調査②	児童の意識を調査する。	9月25日の朝の会
「授業」	ロシア出身のALTの教員（T2）との質疑応答を通して、また、ALTの教員（T2）の説明を聞いて、ロシアについて理解を深める。	9月25日の4校時
調査③	児童の意識を調査する。	9月26日の朝の会

2-2 「調べ学習」について

9月12日の朝の会で調査①を実施した後、その朝の会でエカテリーナ先生から第5年A組（児童数：32名）へのメッセージ「Hello！ How are you？ We have a class in 9/25. I will tell you about my county, Russia. So, Can you research about Russia in autumn holidays. Have a good holidays！」を伝えた。「エカテリーナ先生の母国 ロシアについて調べよう！」と題したワークシート（図1）を配付し、児童にロシアについて「調べ学習」をさせた。ワークシートでは「①調べたい内容（調べたい理由）、②調べて分かったこと（調べた日）（調べた方法）、③調べて思ったことや気付いたこと、④エカテリーナ先生に質問したいこと」の記述欄を設定した。「調べ学習」の期間は、秋季休業（9月17日～9月20日）を含む9月12日～9月24日であった（表1）。

エカテリーナ先生の母国
ロシアについてしらべよう！

5年 組 番 名前 _____

① 調べたい内容（調べたい理由）

② 調べて分かったこと（調べた日）
（調べた方法）

③ 調べて思ったことや気付いたこと

④ エカテリーナ先生に質問したいこと

図1 児童に配付したワークシート

2-3 「授業」について

2-3-1 「授業」の展開

9月25日の朝の会で調査②を実施した後、授業を4校時に実施した。授業の展開を表2に示す。授業中、後藤大雄（T1）が授業をコーディネートし、ALTの教員（T2）が質疑応答、プレゼンテーションを行った。

表2 授業の展開

学習活動	学習内容
①	ALTの教員（T2）と児童の質疑応答
②	ALTの教員（T2）によるプレゼンテーション
③	ALTの教員（T2）と児童の質疑応答

2-3-2 学習活動①

学習活動①では「調べ学習」をもとに児童に質問をさせ、ALTの教員（T2）が質問に回答した。学習活動①におけるALTの教員（T2）と児童の質疑応答の一部を抽出して表3～表5に示す。なお、表3～表5における児童の番号は表内の児童を識別するために付けており、他表の児童の番号とは関連していない。学習活動①のようすを図2、図3に示す。

表3 学習活動①におけるALTの教員（T2）と児童の質疑応答（一部）

C1：「先生、ロシアと日本の国境っていうのはどこなのでしょう？ 北海道とロシアの間に島があるじゃないですか。国後島とか色丹島とか。あそこってロシア領なのですか？ それとも日本領なのですか？」
C：「あ、それ気になる。」
ALT：「それは難しい質問よね。北方領土の…。」
C2：「え、それ聞いてもさ、先生、困るだけやろ。」
ALT：「んー、そうね。先生が政治家じゃないから、なんて答えて良いか…。なんとも分からないので…。先生は実は生まれはモスクワの方です。みなさん、ちょっと頭の中に世界地図を想像してください。モスクワっていったらヨーロッパの方ですよ。実は先生もその北方領土の方へ行ったことがない。遠すぎて行けないのですよ。」
C3：「あ、広いから？」
ALT：「そう、逆にヨーロッパの方が近くて、そちらの方に行くことが多かったのだけどね。結構、日本に来てから北方領土の問題を聞いたりとか、話をいろいろと聞いたりしたのだけど、逆にモスクワの方ではそうでもなかったね。」
C4：「お尋ねがあります。先生はモスクワの方だったのですよね。モスクワって地域は寒かったですか？ 僕、調べたのですが結構人口密度が高いって…。」
C5：「それ寒いと関係ある？」
C4：「あるよ。」
ALT：「実は、まあすごく広い国ですので、もちろん地域によって夏と冬の温度は全然違います。例えば、先生が生まれたモスクワの近くなのですけど冬は-30℃まで。」
C：「えー。」
ALT：「みなさんの家の冷蔵庫よりは寒いですよね。先生のところは-30℃くらいまで下がるがあります。だけど、夏もちゃんとあります。夏だったら、日本の5月とか9月のように20℃とか30℃とかまで上がって、泳ぎに行くこともあります。」
C：「え、涼しい。」

C1～C5：児童，C：複数の児童，ALT：ALTの教員（T2）

表4 学習活動①におけるALTの教員（T2）と児童の質疑応答（一部）

ALT：「みなさん、質問あったら、コメントとか是非。なんでもいいよ。料理の事とかたくさん書いてありましたし、色んな伝統的な事も書いてありました。」
C1：「エカテリーナ先生が好きな世界遺産は何ですか？」
ALT：「ロシアの中？ ロシアの中の世界遺産？ うーん、そうですね。モスクワのセンター、赤の広場っていう場所があるのですが、本当に名前の通りで周りをみても赤い建物がたくさんあります。先生は赤色が大好きでしょ。赤の建物がすごくきれいです。その奥で有名なプーチン大統領も仕事をしている。その中にレーニンのミイラもあります。」
C2：「レーニンって何？」
ALT：「ロシアの歴史的に有名な人物。レーニンのミイラを中に入れて見ることができます。」

C3 : 「ちょっとこわい。」
 C4 : 「え、見てみたい。」
 T1 : 「次の質問、行ってみようか。」
 C5 : 「ロシアに帰ったら、最初に食べたい物って何ですか？」
 ALT : 「そうですね、先生が一番食べたいのは一、ロシアの餃子。」
 C : 「えー。」
 T1 : 「え、あるのですか？」
 ALT : 「ロシアの餃子があります。それは、中国の水餃子とすごく似ています。中にたくさんのお肉が入っているの、野菜をほぼ入れずに肉だけ。」
 C : 「えー。美味しそう。」
 ALT : 「もうね、すごく美味しい。時々ね、お肉の代わりに野菜、例えばジャガイモ、ポテトサラダ、マッシュポテト入れたり、または果物を入れたりする。」
 C : 「えー。」

C1～C5 : 児童, C : 複数の児童, T1 : 後藤, ALT : ALT の教員 (T2)

表5 学習活動①におけるALTの教員(T2)と児童の質疑応答(一部)

C1 : 「初めて宇宙に行ったのは犬ですよ？」
 ALT : 「あ、犬。その犬たちは、ベルカとストレルカですね。ロシアの犬が2匹、宇宙に行きました。そして、戻ってきた乗り物がね、カルーガのロシアの宇宙関係の博物館にあります。そこにいろいろな物が飾ってありますので、みんなも行ったら絶対に喜ぶと思います。ガガーリンの乗り物があったり、実際に宇宙から戻ってきた真っ黒な乗り物があったり、いろいろ見られます。」
 C2 : (挙手)
 T1 : 「C2さん。」
 C2 : 「えっと、私はチャイコフスキーについて調べただけで、先生はチャイコフスキーの曲の中でどれが一番好きですか？」
 ALT : 「チャイコフスキー好きだけど、チャイコフスキーの中でこれだけって言うのは中々決められないかも知れない…。くるみ割り人形かな…。ごめん。1つだけには中々決められないよね。」
 ALT : 「C2さんは何か好きな曲ありますか？」
 C2 : 「私はくるみ割り人形が好きです。」
 ALT : 「あれはロシアではボリショイ劇場がすごく有名ですね。ロシアのバレエは、すごく厳しくて有名なのですが、あそこでいろいろ見ることができますので、みなさん、もし、行かれたらお勧めです。」
 T1 : 「うん、ロシアのバレエはすごいよ。」

C1・C2 : 児童, T1 : 後藤, ALT : ALT の教員 (T2), (): 行動

2-3-3 学習活動②

学習活動②ではALTの教員(T2)が、ロシアに関する事についてスライドを用いてプレゼンテーションを行った。学習活動②のようすを図4に示す。

スライドで児童に見せた写真は、①「ロシアの地図」、②「赤ちゃんを抱いたプーチン大統領の写真」、③「タオルで巻かれた赤ちゃんの写真」、④「産婦人科の病院の写真」、⑤「保育園内の未就学児が椅子に座って机上で遊んでいる写真」、⑥「保育園内のベッドで未就学児が昼寝をしている写真」、⑦「未就学児が防寒用の服を着て雪の中を散歩している写真」、⑧「毛皮の帽子を被っている女子の写真」、⑨「青い衣装のサンタクロースの写真」、⑩「-2℃～5℃の気温の中、野外で水着を着て水浴びをする小学生の写真」、⑪「-20℃～-15℃の気温の中、野外で水着を着て水浴びをする小学生の写真」、⑫「プーチン大統領が子どもの頃の写真」、⑬「プーチン大統領が大学生の時の写真」、⑭「小学校の制服を着てリボンを頭に付けた女子の写真」、⑮「赤の広場の写真」である。

説明した内容を以下に示す。

スライド①「ロシアの地図」を提示し、世界で一番面積が大きい国はロシアであり、主都のモスクワ～ウラジオストクの間をシベリア鉄道で移動すると7日間～10日間かかることを説明した。

スライド②「赤ちゃんを抱いたプーチン大統領の写真」、スライド③「タオルで巻かれた赤ちゃんの写真」、スライド④「産婦人科の病院の写真」を提示し、ロシアでは赤ちゃんに服を着せるのではなく、タオルで巻くこと、また、赤ちゃんが病気になってはいけないため、ロシアの産婦人科の病院内には母親以外は入れないことを説明した。

スライド⑤「保育園内の未就学児が椅子に座って机上で遊んでいる写真」、スライド⑥「保育園内のベッドで未就学児が昼寝をしている写真」、スライド⑦「未就学児が防寒用の服を着て雪の中を散歩している写真」を提示し、ロシアでは共働きが多いため、夜まで保育園が開いていること、気温が低いこと、床に座って遊ぶのではなく、椅子に座って机の上で遊ぶことが多いこと、また、昼寝をする場所も床に布団を敷いて寝るのではなく、ベッドの上に布団を敷いて寝ること、さらに、保育園で未就学児が外で活動する際、防寒のため、たくさんの服を重ね着して遊ぶことを説明した。

スライド⑧「毛皮の帽子を被っている女子の写真」を提示し、ロシアでは防寒のため、オオカミ、キツネ、ウサギの毛皮を材料として帽子や服をつくり、それらを身に付けて外出することが多いことを説明した。

スライド⑨「青い衣装のサンタクロースの写真」を提示し、ロシアでは、クリスマスが1月7日であること、サンタクロースが来るのは12月31日の大晦日であること、サンタクロースの衣装は雪をイメージして青色のコートであることが多いこと、家にサンタクロースが来たとき、子どもたちが歌を歌ったり、踊りを踊ったりしてプレゼントをもらうことを説明した。

スライド⑩「 -2°C ～ 5°C の気温の中、野外で水着を着て水浴びをする児童の写真」、スライド⑪「 -20°C ～ -15°C の気温の中、野外で水着を着て水浴びをする児童の写真」を提示し、ロシアでは、風邪にかからない元気な体をつくるために、小学校の体育の時間に外で水浴びをすることを説明した。

スライド⑫「プーチン大統領が子どもの頃の写真」、スライド⑬「プーチン大統領が大学生の時の写真」を提示し、プーチン大統領も体を鍛えた結果、筋肉質の体になったことを説明した。

スライド⑭「小学校の制服を着てリボンを頭に付けた女子の写真」を提示し、ロシアでは小学校に行くことはおめでたいことなので、低学年、中学年の児童の多くが大きいリボンを頭に付けて登校することを説明した。

スライド⑮「赤の広場の写真」を提示し、赤の広場はロシアの首都のモスクワにあって世界遺産であることを説明した。

2-3-4 学習活動③

学習活動③では、学習活動②「ALTの教員(T2)によるプレゼンテーション」をもとに児童に質問をさせ、ALTの教員(T2)が質問に回答した。学習活動③におけるALTの教員(T2)と児童の質疑応答の一部を抽出して表6に示す。なお、表6における児童の番号は表内の児童を識別するために付けており、他表の児童の番号とは関連していない。学習活動③のようすを図5に示す。

表6 学習活動③におけるALTの教員(T2)と児童の質疑応答(一部)

<p>C1:「中学校とか高校とかは制服ですか？」</p> <p>ALT:「そうそう、実は最近、中学校とか高校とかはね、制服がどんどん少なくなって、あまり制服がない。だから、自由服の場合が多いです。けれど、やっぱり勉強ということなのでちゃんとした、まあ女の子だったらスカートとかジャケットとか…。ふさわしい服装で行くことが多いと思います。でもまあ、日本ほどは厳しくないかなと思います。」</p> <p>C2: (挙手)</p> <p>T1:「C2さん。」</p> <p>C2:「えっと、あの、赤ちゃんはいつ頃になったらあのタオルをとるのですか？」</p> <p>C:「あー、確かに。」</p> <p>ALT:「だいたい半年くらいはあれをしますね。」</p> <p>C:「えー。」</p> <p>ALT:「赤ちゃんが、はいはいするとか、座る頃になると、普通の服を着ることになります。だから、赤ちゃんをタオルで巻くのは最初だけです。」</p>
--

C1・C2:児童, C:複数の児童, T1:後藤, ALT:ALTの教員(T2), ():行動



図2 学習活動①



図3 学習活動①



図4 学習活動②



図5 学習活動③

3. 調査方法と分析方法

前述したように児童の意識について3時点で調査を実施した。1回目の調査①は2019年9月12日の朝の会、2回目の調査②は9月25日の朝の会、3回目の調査③は9月26日の朝の会に行った。別の言い方をすると、調査①の調査時は「調べ学習」の開始前（単元開始前）であり、調査②の調査時は「調べ学習」の終了後、また、「授業」の開始前であり、調査③の調査時は「授業」の終了後（単元終了後）であるといえる。質問紙では「問1」～「問3」を設定した。

「問1」では「ロシアに対するあなたの興味の程度を教えてください。あてはまる番号に一つ○をつけてください。」という指示を行い、質問項目①「ロシアについて知りたい」を設定し、5件法で回答を求めた。

「問2」では「ロシアに対するあなたの理解の程度を教えてください。あてはまる番号に一つ○をつけてください。」という指示を行い、質問項目②「ロシアについて知っている」を設定し、5件法で回答を求めた。

「問3」では「ロシアに対するあなたの印象を教えてください。あてはまる番号に一つ○をつけてください。また、そのように答えた理由を記述欄に書いてください。」という指示を行い、質問項目③「良好（ロシアに対する印象）」を設定し、5件法と自由記述で回答を求めた。「問1」～「問3」の5件法は「5：とても当てはまる、4：だいたい当てはまる、3：どちらともいえない、2：あまり当てはまらない、1：まったく当てはまらない」とした。この他、質問紙では「問1」～「問3」の他、出席番号を記入させた。

分析するにあたり、選択技法による調査については、5件法の「5：とても当てはまる」を5点、「4：だいたい当てはまる」を4点、「3：どちらともいえない」を3点、「2：あまり当てはまらない」を2点、「1：まったく当てはまらない」を1点とした。この得点を用いて平均値と標準偏差を算出し、天井効果の有無、床効果の有無を確認した。「問1」～「問3」で設定した質問項目（質問項目①「ロシアについて知りたい」、質問項目②「ロシアについて知っている」、質問項目③「良好（ロシアに対する印象）」）は、得点の値が高いほど良好な状況を示している。そのため、天井効果がみられた場合、児童の意識は「良好」と判断し、床効果がみられた場合、児童の意識は「不良」と判断した。さらに、調査時（調査①、調査②、調査③）を要因とする1要因分散分析（反復測定）を行った。

「問3」の記述法による調査については、記述を読み、児童がそのように感じた理由が書かれているもの

(児童の意識の要因を見取ることができたもの、もしくは、児童の意識の要因を類推できるもの)を抽出した。この時、選択技法による調査をもとに、「5:とても当てはまる」と「4:だいたい当てはまる」を「ポジティブな意識」とし、「3:どちらともいえない」は「ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識」とし、「2:あまり当てはまらない」と「1:まったく当てはまらない」を「ネガティブな意識」とした。この3つのカテゴリー(「ポジティブな意識」、「ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識」、「ネガティブな意識」)ごとに内容の同質性にもとづいて分類し、人数を集計した。類似の内容が複数抽出された場合には、1つの意見に集約した(一方の意見を省略した)。ただし、ニュアンスに違いがみられた場合は個別のものとして扱った。1人の記述に複数の理由が書かれていた場合には、それぞれ個別のものとして扱った。

4. 結果と考察

4-1 選択技法の調査について

「問1」～「問3」の選択技法の調査について前述した方法で分析した。その結果を表7、表8に示す。有効回答数は31名であった。

「問1」の質問項目①「ロシアについて知りたい」において、表7をみると調査①～調査③のすべてにおいて天井効果がみられた。このことは、ロシアに対する興味(「ロシアについて知りたい」という児童の意識)が、単元を通して常に高く、「良好」であったことを示している。なお、表8をみると調査時による主効果はみられない。この要因は各調査時で天井効果がみられたためと考えられる。

「問2」の質問項目②「ロシアについて知っている」において、表7をみると調査①よりも調査②の平均値が高く、調査①よりも調査③の平均値が高い。表8をみると調査①と調査②、調査①と調査③にそれぞれ有意な差がみられた。これらのことは、学習活動①を通してロシアに対する理解(「ロシアについて知っている」という児童の意識)が明瞭に高まり、高まった意識は学習活動②を通して維持されたことを示している。ただし、表7をみると各調査時(調査①～調査③)において天井効果はみられない。このことは、単元を通して、児童の意識(「ロシアに対する理解の程度」)が「良好」というまでには至らなかったことを示している。

「問3」の質問項目③「良好(ロシアに対する印象)」において、表7をみると調査①よりも調査③の平均値が高い。表8をみると調査①と調査③に有意な差がみられた。これらのことは、単元(学習活動①と学習活動②)を通してロシアに対する印象が明瞭に高まったことを示している。ただし、表7をみると各調査時(調査①～調査③)において天井効果はみられない。このことは、単元を通して、児童の意識(ロシアに対する印象)が「良好」というまでには至らなかったことを示している。

表7 「児童の意識」の平均値、標準偏差、天井効果の有無

番号	質問項目	分析内容	調査①	調査②	調査③
①	ロシアについて知りたい	平均値(標準偏差)	4.03(1.35)	4.33(0.84)	4.50(0.97)
		天井効果	●	●	●
		床効果	-	-	-
②	ロシアについて知っている	平均値(標準偏差)	2.74(1.06)	3.77(1.09)	3.90(1.01)
		天井効果	-	-	-
		床効果	-	-	-
③	良好(ロシアに対する印象)	平均値	3.26(1.18)	3.52(1.09)	3.94(1.00)
		天井効果	-	-	-
		床効果	-	-	-

N=31

min=1, max=5, 有り:●, 無し:-

表8 「児童の意識」の1要因分散分析の結果

番号	質問項目	自由度	F値	p	多重比較
①	ロシアについて知りたい	1.63, 47.26	3.40	n. s.	-
②	ロシアについて知っている	2, 60	23.39	***	調査①<調査②, 調査①<調査③
③	良好(ロシアに対する印象)	2, 60	5.61	**	調査①<調査③

n. s. : 非有意, $p < 0.05$, * : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$, *** : $p < 0.001$, - : 無し

4-2 記述法の調査について

「問3」の記述法の調査について前述した方法で抽出・分類し、集計した。その結果を表9～表11に示す。なお、表9～表11では「ポジティブな意識」を○、「ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識」を□、「ネガティブな意識」を△と表記した。

まず、調査①の記述内容を分類・集計した結果について以下に述べる（表9）。

「ポジティブな意識」に該当するものについて以下に考察する。

「エカテリーナ先生の母国だから。」「エカテリーナ先生が良い人だから。」といった記述がみられ、要因として「ALTの教員（T2）」が読み取れた。「プーチン大統領が良い人だから。」といった記述がみられ、要因として「プーチン大統領」が読み取れた。「歴史がおもしろいから。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの歴史」が読み取れた。「国が大きいから。」「全体が大きいから、いろいろな物があるそうだから。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの国土の広さ」が読み取れた。「マトリョーシカがあつて面白そう。」といった記述がみられ、要因として「マトリョーシカ」が読み取れた。「景色がきれい。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの風景」が読み取れた。「貿易が進んでいる。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの貿易」が読み取れた。「安全そうだと思ったから。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの治安」が読み取れた。「美人が多い。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの女性像」が読み取れた。

「ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識」に該当するものについて以下に考察する。

「ロシアについてあまり知らないから。」といった記述がみられ、要因として「ロシアに関する知識が不足していること」が読み取れた。「空気がきれいそうだけど、日本との北方領土問題があるから。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの環境」と「北方領土の問題」が読み取れた。「料理がおいしそうだけど、日本の領土をとっている(?)」といった記述がみられ、要因として「ロシア料理」と「北方領土の問題」が読み取れた。

「ネガティブな意識」に該当するものについて以下に考察する。

「日本はロシアと北方領土で争っているから。」といった記述がみられ、要因として「北方領土の問題」が読み取れた。「北方領土や軍事面に関して、正直良好な印象はほとんどない。」といった記述がみられ、要因として「北方領土の問題」が読み取れた。「軍事面」という表記が、具体的に何を示しているのかは不明であるが、「軍事に関すること」があることも読み取れた。

表9 調査①の記述内容を分類・集計した結果

分類	記述内容	人数
○	エカテリーナ先生の母国だから。	2
	エカテリーナ先生が良い人だから。	1
	プーチン大統領が良い人だから。	1
	歴史がおもしろいから。	1
	国が大きいから。	1
	全体が大きいから、いろいろな物があるそうだから。	1
	マトリョーシカがあつて面白そう。	1
	景色がきれい。	1
	貿易が進んでいる。	1
	安全そうだと思ったから。	1
	美人が多い。	1
□	ロシアについてあまり知らないから。	5
	空気がきれいそうだけど、日本との北方領土問題があるから。	1
	料理がおいしそうだけど、日本の領土をとっている(?)	1
△	日本はロシアと北方領土で争っているから。	2
	北方領土や軍事面に関して、正直良好な印象はほとんどない。	1

○：ポジティブな意識

□：ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識

△：ネガティブな意識

次に、調査②の記述内容を分類・集計した結果について以下に述べる（表10）。

「ポジティブな意識」に該当するものについて以下に考察する。

「チャイコフスキーが好きだから。」といった記述がみられ、要因として「チャイコフスキー」が読み取れた。ただし、児童のいう「チャイコフスキー」とは人物そのものではなく、「チャイコフスキーが作った楽曲」という意味と思われる。「歴史がおもしろいから。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの歴史」が読み取れた。「国土が大きい。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの国土の広さ」が読み取れた。「きれいな景色がたくさんあるから。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの風景」が読み取れた。「自然があること。」といった記述がみられ、要因として「豊かな自然」が読み取れた。「ロシアはいろいろおいしい料理があるから。」といった記述がみられ、要因として「ロシア料理」が読み取れた。

「ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識」に該当するものについて以下に考察する。

「まだロシアのことを全ては知らないから。」「あまり知らないから分からない。」「ちょっとしか知らないから。」といった記述がみられ、要因として「ロシアに関する知識が不足していること」が読み取れた。「行ったことがないから。」といった記述がみられ、要因として「ロシアへの渡航経験の無さ」が読み取れた。この要因は「ロシアについて知識が不足していること」に近い要因と考えられる。

「ネガティブな意識」に該当するものについて以下に考察する。

「北方領土の不法占拠を行っている。ほとんど武力のなかった島民をおそったから。」「日本との問題が起きているから。」といった記述がみられ、要因として「北方領土の問題」が読み取れた。

表 10 調査②の記述内容を分類・集計した結果

分類	記述内容	人数
○	チャイコフスキーが好きだから。	1
	歴史がおもしろいから。	1
	国土が大きい。	1
	きれいな景色がたくさんあるから。	1
	自然があること。	1
	ロシアはいろいろおいしい料理があるから。	2
□	まだロシアのことを全ては知らないから。	1
	あまり知らないから分からない。	2
	ちょっとしか知らないから。	1
	行ったことがないから。	1
△	北方領土の不法占拠を行っている。ほとんど武力のなかった島民をおそったから。	1
	日本との問題が起きているから。	1

○：ポジティブな意識

□：ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識

△：ネガティブな意識

最後に、調査③の記述内容を分類・集計した結果について以下に述べる（表 11）。

「ポジティブな意識」に該当するものについて以下に考察する。

「エカテリーナ先生の母国だから。」といった記述がみられ、要因として「ALTの教員(T2)」が読み取れた。「面積が広い。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの国土の広さ」が読み取れた。「子どものためにいろいろしているから。」といった記述がみられ、要因として「ロシアの子育て」が読み取れた。「昨日の写真などを見て悪そうな国ではなかったから。」といった記述がみられ、要因として「児童に見せた写真」が読み取れた。具体的に言うと「学習活動②においてALTの教員(T2)がスライドで児童に見せた写真」である。「ロシアのことがよく知れたから。」「ちょっとだけ知れたから。」といった記述がみられ、要因として「ロシアに関する知識が増えたこと」が読み取れた。

「ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識」に該当するものについて以下に考察する。

「料理がおいしいけど、寒い国だから。」といった記述がみられ、要因として「ロシア料理」と「ロシアの気候」が読み取れた。

「ネガティブな意識」に該当するものについて以下に考察する。

「北方領土の問題が解決していないから。」といった記述がみられ、要因として「北方領土の問題」が読み取れた。

表 11 調査③の記述内容を分類・集計した結果

分類	記述内容	人数
○	エカテリーナ先生の母国だから。	1
	面積が広い。	2
	子どものためにいろいろしているから。	1
	昨日の写真などを見て悪そうな国ではなかったから。	1
	ロシアのことがよく知れたから。	4
	ちょっとだけ知れたから。	1
□	料理がおいしいけど、寒い国だから。	1
△	北方領土の問題が解決していないから。	1

○：ポジティブな意識

□：ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識

△：ネガティブな意識

おわりに

本研究では、ロシアを対象とした授業（国際理解に関する学習）を実践し、授業を受けた児童の意識を調べて分析した。その結果、明らかになったことは次の①～④である。

- ① ロシアに対する興味の程度（「ロシアについて知りたい」という児童の意識）は、単元を通して常に高く、「良好」であった。
- ② ロシアに対する理解の程度（「ロシアについて知っている」という児童の意識）は、学習活動①で明瞭に高まり、高まった意識は学習活動②を通して維持された。ただし、「良好」というまでには至らなかった。
- ③ ロシアに対する印象は、単元（学習活動①と学習活動②）を通して明瞭に高まった。ただし、「良好」というまでには至らなかった。
- ④ ロシアに対する印象のうち、「ポジティブな意識」の要因、「ポジティブでもなく、また、ネガティブでもない意識」の要因、「ネガティブな意識」の要因のいくつかがそれぞれ明らかになった。

今後の課題

本研究では、ロシアを対象として実践研究を行い、知見を得た。今後、ロシア以外の国や地域を対象として実践研究を行い、知見を得る必要がある。

参考文献

- 国士舘大学国際交流センター（2017）：「世田谷区立城山小学校 2017年7月28日／国際理解教育実施レポート」, https://www.kokushikan.ac.jp/research/IC/about/performance/education/details_10830.html (accessed 2020.8.3) .
- 東京外国語大学（2019）：「若葉台小学校・国際理解の授業で交流」, <https://tufs-tenkai2rus-jp.com/internship-wakasho-20190218/> (accessed 2020.8.3) .
- 文部科学省（2018a）：『小学校学習指導要領（平成29年度告示）』, 東洋館出版社.
- 文部科学省（2018b）：『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総合的な学習の時間編』, 東洋館出版社.
- 吾妻学園つくば市立吾妻小学校（2018）：「ロシアの学校に行きたい！（2年生の国際理解教室）」, <https://www.tsukuba.ed.jp/~azuma/?p=8367> (accessed 2020.8.3) .